

令和3年度第2回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：令和4年1月25日（火）午前10時から正午

場所：白井市役所本庁舎2階災害対策室2・3

出席者：【委員】

関谷 昇会長、野水 俊夫副会長、鎌田 元弘委員、手塚 崇子委員
黒添 誠委員、鈴木 康弘委員、近藤 恭子委員、宇賀 博委員、
酒井 啓史委員、福田 純子委員

【事務局】

池内企画政策課長、武藤主査、多納主任主事、高橋主事

傍聴者 なし

1. 開会

2. 議題

(1) 後期基本計画における行政評価について

【会長】

議題1について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料1から資料3に沿って説明。

【会長】

この資料3について、どういうふうな視点で来年度の外部評価の対象事業を選定するのかという部分で、その考え方と、それから案ということで四つの施策を挙げていただいておりますけれども、これでいいかどうかということをお諮りしたいと思います。

まずその前に、今、事務局で説明いただいたこととして、今のこの基本計画、実施計画に基づいて、主な取組状況ということで幾つかピックアップして、どんなふうに事業が進んでいるのかということの説明をいただきました。

さらに、もう一つは、その背景、社会情勢の変化ということで、SDGsというものをこの計画に絡めて推進しようとしていること、それから北総線の運賃値下げ、これらの影響、人口の減少といったような背景、この辺を踏まえて、どういうふうに今後の計画運用を図っていくべきかということで、この辺を念頭におきながら、来年度この外部評価をする事業を選定していくということで今、説明をいただいたところです。

お諮りをする前に、まず今、事務局から説明いただいたことについて、不明な点、御質問あるいは御意見があれば、御発言をいただければと思います。どなたからでも、どんな

ことでも構いませんので、御意見、御質問等があればお願いをしたいと思います。

【委員】

質問というよりも確認なのですけれども、資料の2の3ページ、国勢調査の結果についてということで、第5次総合計画において、令和7年の目標人口が6万5,500と書いてありますよね。これは6万5,200の間違いではないかと。下の令和2年が6万5,500ですので、そこがちょっと違うと思います。

【事務局】

令和7年の目標人口について、改めて御説明させていただきます。計画書の28ページを御覧いただければと思います。

目標人口の記載がございます。将来人口の話が、27ページを踏まえて最終的に28ページ令和7年の目標人口ということで6万5,500としています。

【委員】

分かりました。

【委員】

1点目は、トライアル・サウンディングという言葉なのですが、今後の方針の中で、市民にとって理解しにくい言葉は、できるだけ使わないようにしていこうという、これはちょっと引かかるのではないかと。日本語で言いにくいということなのは分かるんですが、民間市場調査とか、何か括弧書きでもしないと、2行3行の中で書かれていることですよと言っても、我々がこれをもう分かっているものだとして進めていくのには、ここでうたっているのにちょっと抵抗があるなというふうに感じる点が1点。

もう一つは、説明にありました今回取り組んだ「しろいまっち」というのを私も今日、会議があるので登録しようと思ったのですが、生年月日が思うように登録できないので、事務局ではやっておられるのだと思うので、どうだったでしょうかとお聞きしたかったもので。以上2点でございます。

【事務局】

まず一点目の確かになじみの薄い用語をできるだけ簡単にと言いながら、サウンディングのところで、確かに説明が不足なところは御指摘のとおりかと思えます。評価時だけでなく、今回、この審議会の資料としても、やはり市民参加ですから、市民の目にするという点がありましたので、おっしゃるとおりかと思えます。表記の仕方は補足するなり、公開に当たっては、考慮させていただければと思います。

また、2点目の生年月日の入力なのですが、私もまだ登録してはいない状況で、実際のところ、不具合があれば担当には伝えるのですが、まず、こういったところに問題があったかを教えていただければと思います。

【委員】

生年月日を入れようと思すと、2022年1月というのが出るのですね。そこから日にち

を入れるのですが、例えば1946年生まれだとすると、1946年を2021年から、ずっと左クリックして70年分を戻すしかないのか。数字を入れるところが今年の今月の日付なのですね。数字を入れたかったのですが、入れられなかったので、皆さん方どうされているのかなと思って聞きました。

【事務局】

操作性のところにつきましては、私も終わってから自分自身で確認をしまして、もしほかに方法があるのか、その辺り改善点があるのであれば、担当にもすぐ伝えたいと思います。

この「しろいまっち」で同じように生年月日の入力をされたことがある方は、今、委員さんの中でいらっしゃいますでしょうか。

【委員】

開いたことはある。登録はしていません。

【事務局】

実際、会場内も、まだ登録まではということでしたので、確認してみます。

【委員】

市の方もぜひやってみてください。

【事務局】

はい、委員から今、おっしゃられたとおり、市でも登録していくようにしていきたいと思います。

【会長】

その辺、どんなふう運用されているのかというのは、ぜひ評価の段階でもいろいろまた深掘りしていければと思いますけれども、今のところは、こういう感じで動いているんだというふうなことをイメージしていただいて。それも踏まえて、来年度はどういう事業を選んでいけばいいのかということで、今日のところは御検討いただければと思いますけれども。

いろいろ施策の中身について聞きたくなる場所もあるかと思いますが、今日のところは、選定に当たって必要な事柄について御確認をいただければというふうに思います。

資料の3のことについて、お諮りをしたいと思いますけれども、その前に、ぜひここは確認しておきたいということがありましたら、御発言をお願いできればと思いますが、いかがですか。

【委員】

資料の3について、ちょっと確認しておきたいのですが。四角に囲まれた書き出しのところですね。「以下に示す基準に該当する」云々のそこの意味が一つ読み取れないところ、特に後半の部分が読み取れなくて。1を選んで、その後に4に展開していく、その間の手順をちょっと補足していただけますでしょうか。

【事務局】

まず1と2ですが、今回、4施策を選ぶということになります。

ただ、原則として、この2に挙げた4施策を選びたいのですが、それ以上に、もし遅れたものがあれば、そちらを優先したいと。例えば、この4施策以上に遅れたものが一つということであれば、その一つを選んで、残りの三つをこの4施策の中から、進捗状況ですとかを踏まえて事務局で判断させていただければということです。例えば、この4施策以上にほかの4施策が著しく遅れているということであれば、ここに挙げている施策ではない4施策を選ぶということも考えています。

【委員】

了解です。

【会長】

事務局の提案としては、一つは事業の進捗、今、遅れが見られるということと、それから今日少しお話しいただいたように、例えば北総線の値下げだとか、あるいはコロナの影響といったようなことで少し事業の進め方を変えなければいけないとかという、そういうことに関する施策を優先的に選びたいという。そういう方針で、まず、いいかどうかということと、それに照らして、今回この(1)から(4)の施策を提案いただいている、これでいいかどうかということも確認をさせていただくということになると思いますけれども。今回、何でこういう事業を選んだのかという選定基準、方針として、今、説明があったようなことだというのが事務局のお考えだと思います。

このことに関してでも構いませんし、ほかのことでもいいですけども、さらに御質問等あれば、お願いをしたいと思います。

お願いします。

【委員】

今の説明で大体狙いは分かりましたが、さっきのロジックモデルでいうと、主に短期的な観点が中心になって評価を進めたいというような意図で間違いないでしょうか。

【事務局】

短期的なところでいうと、一つは事務事業評価で、施策の一つ下のレベルといいますか、事業の成果というのが出てきます。施策評価の一つ前で、事務事業評価を担当課長が行うものなのですが、そこで実際取り組まれていることがどうか、そういったことを踏まえて、中期成果にそれが結びついているかといったところ、割と細かいところ、恐らく勉強会ですとか、施策の説明ですとかは、例えば仮に1-1、ゆとりある暮らしを感じるまちづくりの施策評価をするのであれば、それぞれの事業が実際、令和3年度どういうことを特に重視したのかをまず御説明させていただいて、それがどう中期成果に結びついたかといったことも、市でまず評価したことを説明させていただいて、それについて事業の視点ですとか、取組が結びついたかどうかといったところを評価いただく、御確認いただくといっ

たことなので、事業を具体的に、こういったところどうかといった話も、今回出てくる可能性があるのかなというふうに考えています。

【委員】

了解です、理解しました。

【委員】

今後のお願いなのですけれども、以前もこういう話をさせてもらったのですけれども、こういう長期計画に関わるものですので、役所のやっていることですから、基本的には元号を使っていただけるのはやむを得ないと思うんですが、できるだけ西暦も併記するような形をお願いしたいなど。

今日の資料の2を見ますと、西暦表記のところは、市長が子どもたちとやった、そこだけさすがに2050年と、令和何年とは書いていないなというところ以外は、全て元号なのですね。元号が嫌だと言っているのではなくて、例えば、SDGsにしても、2030年というのがゴールだというふうに思っているのですが、これを令和12年になるのかな、今、あまり国際的な、環境のことでもそうだと思うのですけれども、2050年というのが一つ大きなゴールというのが示されているし、SDGsなども2030年というのが言われて、2015年にこういうことが決まったというような感覚でやっている市民が多い中で、全てをせいよとは言いませんが、もう少し西暦併記をお願いしたいなということを要望いたします。

以上です。

【事務局】

おっしゃるとおりです。SDGsにしても、特に世界的に取り組むのは確かに西暦ですので、そこは工夫させていただきたいと思います。

【会長】

その辺、表記の問題もあると思いますし、長期・中期・短期というスパン、どのようなスパンの中で何がどう動いていて、その中で何をどういうふうに評価していくのかという、その辺が見えてこない、なかなか実質的な評価にはつながらないところでもありますので、その辺を十分確かめられるような資料づくりと評価というものにつないでいっていただければというふうには思います。

ほかにいかがでしょうか。

そうしましたら、まず一つ、資料3の令和4年度の外部評価の対象施策の選定方針ということで、今、確認させていただいたような基準・考え方に基づいて、この四つの施策を対象として外部評価を実施するという。これでよろしいかどうかということについてのお諮りをさせていただきたいと思います。これで来年度は進めていくということでもよろしいでしょうか。

【事務局】

会場内は反対はありません。

【会長】

特に反対がなければ、このような形で、次年度については進めさせていただきたいと思
いますけれども、よろしいでしょうか。

【委員】

了解です。

【会長】

それでは、この方針に基づいて、まず次年度は、外部評価を進めていくことで確認をさ
せていただきたいと思います。さらに評価方法について、また御確認をいただいて、お諮
りをさせていただきたいと思しますので、まず残りの資料について、事務局から説明をお
願いたします。

【事務局】

資料4-1から資料4-3に沿って説明。

【会長】

今、事務局から施策評価シート、それから外部評価シート、そして評価基準について説
明をいただきましたけれども、この審議会の今後の作業との関わりで、もうちょっと改め
て確認をしておきますと、評価に当たって、まず、次回の審議会が5月が予定されていま
すけれども、その段階で、来年度行う四つの施策の事業概要についての説明を受けます。
その施策の内容を我々が知る基礎資料に、この資料4-1が基になります。

先ほど御指摘いただいたように、これは新年度から動いていくということですがけれども、
これがある程度埋められたものを我々が確認して、その施策の内容について確認をするこ
うことになります。それを踏まえて、質問があれば質問等を出していただいて、7月に
勉強会、それからワークショップを開いて深掘りを図っていくというふうな流れになりま
す。

その後、資料の4-2に基づいて外部評価のシートを埋めていただくということになり
ます。これは各委員に外部評価のシートを埋めていただいて、まず個別に判断をしていた
だく。それを踏まえて、この審議会ですべてとして評価を固めていくというふうな流れに
なります。ですので、資料の4-1、4-2は、新年度から早速動き出すということになり
ますので、一応、今年度中にこれを固めるということをさせていただけばというふうに思
っています。それを踏まえた上で、今、説明があった中身について、御質問、御意見等を
頂戴できればと思います。

資料4-1については、今、申しあげましたように、施策の具体的な中身、特にロジッ
クモデルといわれるように、求める成果があつて、それに対して何ができたのか、できな
かったのかというふうな形で、その事業、施策というものをより高度に、あるいは、より
実質的に評価していくということを狙った形で今回、少し改正が加えられています。

こういった形でこのシートを動かしていくということでもいいかどうか。あるいは、もう

ちょっと、ここどうなっているのか、あるいは、こうしたほうがいいのかというふうな御意見がありましたら、ぜひ頂ければと思います。資料4-2についても、同じような形です。資料4-3については、今回、評価基準ということで皆様に新しくお示されたものですが、これの中身についても、また併せて御意見を頂戴できればというふうに思います。いかがでしょうか。

【委員】

資料4-1について、裏面なのですが、中段くらいのところで「遅れている取組の原因」と「施策を取り巻く環境の変化」と二つありますが、こういうのはSWOT分析などでも出てきますが、下が主にSWOT分析的に言うと、外部要因的なものという位置づけですが、上は、遅れている取組の原因というのは、主に内部要因的なものを意識されているのか、全部、外部要因も内部要因も含めて意識されているのか、そこら辺は、既に記入し始めているかもしれませんが、書きにくくないですか。

【事務局】

下の「施策を取り巻く環境の変化」が、外部要因が主になるかと思います。遅れている取組の原因というのが、内部もあれば、環境の変化以外の外部で何かという意図もあったのですが、実際ここは修正が可能なところだと思います。一つにまとめるといったことも可能であると思うのですが、分けた方が見やすいのかと思って分けたところではあるのですが。

【委員】

外部要因、二つに分かれているのはいいかなと思いますけれども、最近だと、コロナが外部要因だとすると、コロナにより実施ができないというのがどんどん広がっていきますよね。それは、外部要因なのだけでも、少なくとも、そういう中で内部としては、こういうのは頑張れたよとかというのをうまく引き出すようなことであれば、意識的に分けておいたほうがいいかなというふうに。内部で頑張れている原因もありますよね。外部要因と内部の要因が鉢合わせをするのが最悪の事態と言われる状況なので。

個人的な感想ですが、内部に起因するものと外部に起因するものは分けておいて、意識的に分けていいかなと思いました。感想です。上は、そういう意味では、どちらに入るのか分からないので、どうなのかなというふうに思いました。

【事務局】

今、一つ、施策を取り巻く環境の変化では、遅れている要因、外部要因のほか、こちらですと、あとはプラスの要因も一つ書くことができるのかなといったことで分けたというのが一つありました。

ただ、その内部、外部といったところも意識するようには考えていきたいと思っています。

【委員】

評価する方々が書きにくくなければいいですし、さらに、それを外部評価する、そこが

明確であると、外部評価もしやすいかなというふうに思いました。

【事務局】

こちらで一度確認をさせていただいて、これでいいかどうか再整理をさせていただいてもよろしいでしょうか。このまま変えないかどうかを、この書き方で実際、書く側でも分かりづらいし、どちらに書けばいいか分からなくなってしまう可能性があるかどうか、一度整理をした上で、最終的に今年度中にもう一度提起させていただくということでもよろしいでしょうか。

【委員】

私としては、あくまでも意見なので、お任せします。

【会長】

これは今、御指摘いただいたことで内容的には確認いただけていると思いますので、どういうふうに表記して内部で記入いただけるかどうかということ、その辺を確認いただいて、もし変更があれば、それも含めて調整していただくということで、取りあえずここでは確認をしておきたいと思います。その上で、この後お諮りいただきますけれども、それを込みでお諮りするということにさせていただければと思います。ほかにいかがでしょうか。お願いします。

【委員】

先ほど委員がおっしゃってくださった内部要因なのか、外部要因だったのかという件についてなのですけれども、それでぜひお願いしたいと思ひまして。

というのは、いつも担当者の方からお話を聞くと、この表記だとやっていないと思ひていたけれども、こんなことまでやっていたのだというのが分かることがよく起きて。なので、事前に提出していただくこの資料の4-1が、私たちが読むだけではちょっと分からなかったりとか、お話を聞いたことによって、何だ、ここまでやってくれているならとか、こういう考えがあつて遅れているのなら、評価を少し変えたのと思ひることというのが、結構毎年ある気がします。

内部要因、外部要因というのがちゃんと分かるような、書き手が分かるような書き方で、私たちが見ても分かるような表記の仕方をしていただけるといいかなというのは私も感じました。

本当に毎回、ここの書面だけでは出てこないことが本当にたくさん出てきて、そのときには、なるほどということが本当に結構よくあるので、せっかく書いていただくのならば、資料が実際にやっている方々の内容が反映されるものであったほうがいいと思ひるので、ぜひその辺よろしくお願ひいたします。

【会長】

ありがとうございます。ぜひその点、検討修正をお願ひできればと思ひます。

ほかにいかがでしょうか。ちょっとまだこの辺が分かりづらいという御指摘でも構ひま

せんし、既に過去に評価を経験されている方は、ここをこういうふうにしてくれると評価しやすいといった、そういう御意見もあるかもしれませんが、それも含めて御発言をお願いできればと思います。

【委員】

感想で、非常に評価がしやすいのではないかと。私も前回、評価を担当したのですけれども、資料の4-2にありますように、4段階に分かれていますけれども、前はたしか3段階だったと思うのです。それが4段階に分かれて、Bのところの妥当が、期待をやや上回る、なおかつ妥当であるというふうに書いてあるということで、非常に分かりやすいし、それから評価基準がA、B、Cというふうに示していただいたので、非常に分かりやすいので。前回のとき、私、非常に困ったのですけれども、今回は分かりやすく、この評価基準を読んでいくと、例えば、どこかに「抜本的に」とか書いてあったのが、「やや優れている」というところは「抜本的に」というのが抜けていたりして、なるほどというふうに感じましたので、非常にありがたいと思います。意見でした。

【会長】

ほかにはいかがでしょうか。お願いいたします。

【委員】

前回、私、ここの話は言い出しっぺで。尺度に対してA、B、C、Dという観点を与えたらどうか、ルーブリックというような言い方をしますが、整理してくださって、そこはすごく分かりやすくなったかなと思ったのですけれども、もうちょっと工夫が欲しいかなというふうに正直なところ思いました。

例えば、分かりやすく言うと、2番目の「市民等のニーズに即した取組になっているか」というところですが、これ評価項目ですが、じゃあA、B、C、Dを言うと「ニーズを十分に把握し」、Bでは「ニーズを把握し」、次は「把握が不十分で」って、評価項目を評価項目自体で説明しようとしているんですよね。これ、実はあまり説明になっていなくて。じゃあ、どうするのという。こういうのがいろいろなところに出てくるかなというふうに思いました。

やっぱりここは、しっかりやっておかないと、どうしても評価が曖昧になって、どうしても、さっきの資料にありましたように、BかCにつけざるを得ないというところが。自信を持ってAをつけるとかいうのがやりにくいかなというふうに思いました。

ここは、前の議論で短期から中期に向けて、それが長期に向けてということなので、どこかの項目で入りましたが、中期的な成果がどういう場面だと実現しているというふうに言えるのか。長期成果にも直結するようなところが、あるというところまで含めてがAなのか、そこら辺が割と項目ごとに明確に、もうちょっと違う言葉で説明されると、我々、評価をするときに評価しやすいかなと。形式はこれでいいと思うのですけれども、観点の中身が今一つ工夫が必要かなと思いました。

【事務局】

その辺りは意見を頂ければと思います。そもそも、かなり抽象度は高いなと考えていたので、評価基準ではなくて評価項目で表しているというところは、確かにそういったところもあると思います。意見を頂ければと思います。

【会長】

せっかくですので、今、委員から資料の4-3ですね。評価基準について、もう少し、評価項目の言葉で中身を説明するというよりは、よりかみくだいた、より評価のしやすい表現にしていくというふうな部分ですとか。

あと、評価基準といっても、長期的な視点で行くのか、短期的な部分に使われるのかによって、同じ評価基準でも変わってくる場所がありますから、その辺、少し描き分けて、どの視点で評価をしていくのかというふうなことが、ある程度クリアにさせるというのではないかと、非常に貴重な御指摘かと思っております。もう少しこの辺は練る必要があるかなというふうには思います。このことに併せて、ぜひ、この評価基準について御質問、御意見があれば、まとめてお願いをできればと思います。いかがでしょうか。

これも、私から一つ意見というか、今後、練り直す上で検討いただければと思いますのは、先ほどの資料の4-1で、評価のところに「進め方」というのがあって、行政の役割、協働の役割、市民の役割というふうな描き方がされていますけれども、評価を考えると、評価4-3の評価基準というのは、全て行政の視点から見ているんですね。けれども、協働のことを評価していくという場合は、行政の目線だけではなくて市民目線、それをまたどういうふうに評価していくのか、あるいは協働という部分で、それをどう評価していくのかということ、これまた少し描き分けていくということも、場合によっては問われてくる場所がありますので、従来の総合計画というか、その進捗管理というのは、全て主語は行政だったんですね。行政が何をするのか、行政が何をやったのか、それをどう評価するかというふうな視点を中心としたけれども、これだけどんどん協働の要素が増えてきて、いろいろな主体がそれぞれの取組に関わっているというふうになると、先ほどの内部要因、外部要因ということもそうですけれども、それぞれの取組がどうだったのか、もっと市民が加わるべきだとか、そういうふうな評価の仕方というの、場合によって問われてくる場所がありますので、評価基準というの、行政を評価するというだけでは、ない視点というの、少し加味するのもありなのかなというふうに思いますけれども。

その辺は、事務局どうでしょうか。

【事務局】

参加・協働という評価項目、取組状況の中で、三つ目で「市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか」これが行政側からの目線、特にその最たるところというふうな点で捉えています。これをどうするというのが今すぐには出ないのですが、確におっしゃるとおり、行政側、あとは、市民目線側からという視点、どう入れるか、

そこは一度、宿題とさせていただきます。

【会長】

今すぐ出せる答えではもちろんないとは思いますが、協働といっても、どの視点から評価をしていくのかということは、いろいろな評価があり得るのです。行政が頑張っているのだけれども、なかなか市民がついてきていない、あるいは逆に、市民がすごく頑張っているのだけれども、行政が全然それに追いついてきていないといういろいろな状況が、これまでの評価の中でも垣間見られてきたところがありますので、この辺、多角的に評価をあぶり出せるような視点というものが組み込めるかどうかというのは、御検討いただければというふうには思います。

【事務局】

その評価のところの視点と、あと、前から言われているとおり、やっているところ、この評価自体を市民の方には見ていただけるように、どうするか、それも含めて宿題とさせていただきます。

【委員】

私の話が分かりにくかったかと思いますが、例えば4-3ですが、上から「目標実現に資する取組となっているか」というときに、資する取組とは、大体どのようなことをイメージされているのか、2番目「ニーズに即した取組」ニーズに即するというのはどういうことなのか、3番目「各分野間で必要な連携」各分野間というのは、どういうところが理想的な各分野間なのか。必要な連携って、どういう場合が必要な連携なのか。こういうところを深掘りしていくこと自体が、すごく市民協働も行政の力も上げるのだと思うのですよね。これをチャンスと捉えて、このフレームを考えること自体が、相当いろいろな意味をフレームを見直すいいチャンスなので、ぜひちょっと時間をかけても頑張ってくださいなと思います。

【事務局】

時間を頂くことになると思うのですが、基準をつくるといったところでは、できるだけいいものをつくりたいと思いますので、ちょっとお時間を頂ければと思います。

【会長】

そういう意味では、ちょっとその辺もんでいく必要があるのかなというふうに思いますけれども。今日の段階で、少なくとも資料の4-1と4-2については、ある程度確定させたいと思いますので、そのことを念頭において、そのほか御質問、御意見とかあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。資料の4-1、4-2について、ここはこういうふうな表現にした方が良いのではないかとかといった御指摘がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

資料の4-1と4-2を今、見ていて、資料4-2の新しい変更になっている赤い部分

を、逆に資料4-1のどこから読み取るかというのを今考えているのですが。「各分野間で必要な連携が図られているか」というのは、資料4-1からすると、4のところにある「他分野、他施策との連携」というところとかで見るという感じですか。全体と。例えばなのですけれども。

【事務局】

4-1と4-2を見比べていただければと思うのですけれども、4-1であれば、4番、施策展開の状況(D○②)、一番4-1の下のところにありますD○②のその真ん中、他分野、他施策です。

【委員】

でいいのですね。そうすると「市民間と情報を共有し、参加・協働は得られているか」というところは、どこにありますか。

【事務局】

その4-1であれば、特にまちづくりの進め方で「市民との情報の共有と参加・協働」ということでうたっているのですその下の「進め方」というところが一つ該当します。

【委員】

という形なのですね。ちょっと分かりづらいなと思って。

逆に成果は、成果の1次評価は進捗状況遅れているというのは、先ほどからお話に上がっている裏面の6の「遅れている取組の原因」とか「施策を取り巻く環境の変化」とかで何となく分かるのですけれども。もし4が「進め方」でしたら、もうちょっと4の資料を4-2の文言と少し合致するようなものが的確かなと。実際に担当されている方々が、どういう観点でこちらが見ているかも分かると思うので、進め方を例えば市民と情報を共有している方法や連携の手段とか、例えば何かそういうような項目にさせていただくと、こちらが評価としている内容が書かれる可能性が高いような気がするのですけれども、いかがでしょうか。

【事務局】

まず4-2でもともと細かく書いておまして。そこについては、書いていただきたいところは確かに進め方でも、確かに書く側がそれを認識して書いてくれるかといったところはあります。ですので、4-1をまちづくりの進め方の4-2のところをもう少し分かるようにひもづけて、意識がみんなできるようにということで4-1を補足したいと思えます。

【委員】

よろしくお願いします。

【会長】

ほかにはいかがでしょうか。特にございませんようでしたら、資料4-1と4-2について、今、御意見頂いて少し修正箇所が出てきましたので、これについては、まず事務局

で今後作業していただいて、それについて資料の4-1、4-2の修正については、後日、会長、副会長で確認をして最終的にGOを出すということにさせていただければと思いますけれども、そういう形で4-1、4-2については、これで進めていくということでしょうか。

【事務局】

会場内も了承を得られました。

【会長】

それでは、修正等、後日改めて確認はいたしますけれども、基本、この枠組み、内容で進めていくということで確認をさせていただきたいと思います。

それから4-3については、今日いろいろ御意見を頂いておりますので、そのことも含めて、もう少し事務局等々でもんでいただいて、改めてこの審議会に御提案いただくというふうな形で、今日のところはまだ確定させずに、継続審議という形にさせていただきたいと思います。事務局、それでよろしいでしょうか。

【事務局】

はい。

【会長】

資料の4-3については、令和4年度、来年度の最初の審議会のときに修正したものを御提案いただいて、それをまた委員の皆さんの方にいろいろ御議論をいただいて、それで固めた上で来年度の外部評価に用いていくというふうな形にさせていただきたいと思います。

議題の一つ目については、予定していたことは以上ですけれども、委員の皆様、何かございますでしょうか。

【委員】

今年の予定表、資料1を見ますと、頭に入れておけばいいということでは、5月に開いてこれからのことをもう一度やって、AグループとBグループに二つに分かれるので、例えば自分がAグループだったら、今日ここ4種類出ているうちの2種類について、第2回の審議会というのは2回7月にやって、第3回を別にやるという。2回と3回だから、7月は2日という意味かと。あとは来年度は、5月、7月2回と4回あるよというふうに理解しておけばいいのか。そしてまた、その日程はいつ頃決まるのか。早めに決めておいていただくと、ありがたいなということです。その辺のところをもう一度確認しておいていただければと思いますが。よろしくお願ひします。

【事務局】

来年度の日程のところでは補足をさせていただきます。資料1の1ページのところの部分なのですが、まず5月に対象施策四つ、ただ、その四つは進捗状況を見て、先ほどの四つか、それ以外の何か入替えがあるのか。何にしますということの説明と具体的な対象施策

の概要を説明させていただきます。

その後、第2回審議会が2日間というのがあるのですが、その2日間というのは、Aグループ、Bグループ分かれてそれぞれ1日ずつですので、会長、副会長におかれましては、Aグループ、Bグループ両方御出席をいただきたいと考えておりますが、ほかの委員の皆様においては、どちらか、この中で半分Aグループ、半分Bグループに分かれていただきます。

ですので実質、会長、副会長以外は、第2回の審議会は1日だけ。会長、副会長だけは、AグループとBグループ両方出ていただきますので、2日間出ていただくことになります。

ですので、会長、副会長以外は、第2回は1日だけ。第3回がもう一度Aグループ、Bグループお集まりいただきまして、第3回の審議会の予定では、AグループとBグループは時間をずらして、同日、例えば1時から2時半なり3時までAグループ、その後、3時から5時までBグループですとか、そういったイメージでおります。また第4回、それについては、またお集まりいただいてAグループとBグループの評価結果を共有すると。

ですので、基本的に会長、副会長は、4年度は5回出ていただくと。会長、副会長以外につきましては、4回出ていただく、そういうスケジュールでおります。

【会長】

副会長も大変ですが、よろしくお願いします。

(2) その他

議題の2、その他ですけれども、資料の5が残っておりますので、その点について、事務局から確認をお願いいたします。

【事務局】

資料5に沿って説明。

【会長】

今、事務局から、こうした変更があったということで、統計の結果が出てから改めてそれを数値目標に組み込んでいきたいというふうな説明でしたけれども、このことについて御質問、御意見等があればお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

特にございませんようでしたら、この点については、このまま事務局の提案どおりに進めていただければと思います。

議題については以上となります。残り時間数分ですけれども、今日の段階でぜひ発言しておきたいということがありましたら、お願いしたいと思います。全体に関わることでも、今後のことでも何でも構いませんので、何かありましたら御発言をいただければと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

今期から新たに委員に加わられた方々におかれましては、今どんな仕組みで外部評価が動いているのかということが、まだ、もしかしたらイメージが湧いていない部分もあるかも

しれません。この辺は次年度5月から、また新たに始まりますけれども、この辺で具体的な施策の取組状況の説明を受けて、どういう視点から評価していけばいいのかということがある程度分かってきて、実際、勉強会、ワークショップを重ねて内容を深掘りしていく、そういうプロセスの中で、どんなふうに評価していけばいいのかということも少しずつ見えてくるかと思えますので。現時点では、まだイメージが湧かないかもしれませんが、追ってその辺は少しずつイメージを膨らませながら評価をしていただければというふうに思います。

それでは、事務局に後はお任せをしたいと思います。

【事務局】

それでは、先ほどからお話ししておりますとおり、今回は5月、恐らく中旬から下旬頃で、会長、副会長等と日程をまず調整させていただければと思います。決まり次第、極力7月も含めて早く御連絡をさせていただければと思います。

会長のおっしゃったとおり、今年度はかなり抽象度が高いお話で、特に市民公募でいらっしゃる皆様にはなかなか入りにくいお話であったかと思いますが、次からはかなり具体的な話で、特に市民目線でいろいろと5月以降、御発言いただければと考えておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

事務局の報告は以上になります。

【会長】

それでは、ちょうど時間にもなりましたので、今日の令和3年度の第2回の総合計画審議会については、以上で閉じさせていただきたいと思えます。どうも皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。